

## 管内生産者に対し 畑作普及説明会を実施



▲ 説明会では多くの生産者が参加した

JAでは畑作物生産振興説明会を、5月26日から6月14日にかけて、8会場で開催しました。管内での畑作普及率向上を目指し、重要品目5つを含む多品目の収支予測などを説明して、生産者に畑作物の新規作付・作付面積拡大を促しました。

また能代市環境産業部の渡部次長から、今年度より25年度までの3年間実施される、『畑作振興基金事業』について説明が行われました。夢プランや、畑作の新規作付・作付面積拡大した生産者に対する助成などの補助事業が紹介され、参加者らは畑作への補助について確認し合いました。

## 利用される方々のため より良い環境づくりを実施



▲ 色とりどりの花々が綺麗に植えつけられた

JA二ツ井支店前の花壇で6月1日、JA女性部二ツ井支部員とJA職員による、花壇の植え付けが行われました。

この取り組みは、JAを訪れるお客さんが気持ち良く支店を利用して頂く環境づくりとして、二ツ井支店と女性部が共同で計画しました。事前に二ツ井支店職員が花壇の草取りを行い、当日は用意されたダリアやワッテル・ヒマワリなどの大小様々な花々を、女性部員らが綺麗に花壇に植えつけていきました。完成した花壇によって、支店前は華やかになり、訪れた方々の目を楽しませています。またこの取り組みは毎年行われる予定です。

## 春キャベツの出荷に向けて 栽培管理と出荷規格を確認



▲ 出荷規格について説明する担当者

JAあきた白神キャベツ部会（福司金治郎部長）は6月10日、春キャベツの収穫・出荷の時期に合わせて、キャベツ目揃いをJA営農経済事業本部で開催しました。

会には生産者や市場関係者など約30名が参加。市場関係者は「現在キャベツ単価の低迷が続いているが、今後回復する見通しがあるので、高品質なキャベツの出荷に心掛けてください。」と話しました。JA担当者からは病害虫防除など栽培管理の徹底が呼びかけられ、生産者らは質問を交えつつ、収穫・出荷に向けた意見交換を行っていました。

## 田植え体験を通じて 農業の大切さを実感



▲ 一生懸命に苗を植える児童ら

JA青年部二ツ井支部（池端竜支部長）は6月8日、JA食農教育の一環として、二ツ井小学校5年生を対象に田植え体験学習を実施しました。

田植えは農事組合法人富根ファームが所有する圃場にて行われました。秋には同圃場にて稲刈り体験を予定しており、植え付けから刈り取りまで行うことで、児童らに農業の大切さを伝えています。

児童らは青年部員やJA担当者の説明を受けながら、初めての田植えを開始。慣れてくるとあちこちから「楽しい!!」「追加の苗下さい!!」という声が聞こえるなど、笑顔と元気にあふれた田植え体験となりました。